

静岡  
SHIZUOKA

## 地域とみちの新たな関係を探る

～湯道から高速道路まで～

6月1日(金)、2日(土)の両日、下田市において“これからのみちと地域の関係”を考えるフォーラムが開催された。

初日の意見交換会『地域とみち 協働のあり方』（主催：静岡地域学会他、会場：ベイステージ下田）では、北海道、岩手県、石川県などで活躍している地域づくり各団体からの事例紹介を受け、道をテーマにした地域づくりのあり方を議論。地域づくりのまとめ役を担う中間支援団体の重要性を再認識するとともに、ネットワーク機能、地元地域づくり団体の成長・育成機能を発揮しながら政策提言を行える専門的能力の必要性が高まっていることが確認された。

翌日（2日目）の午前には、現場で語る『アルキング&カタリング』と題し、旧南豆製氷所、下田公園、ペリーロードなど伊豆石やなまこ壁の残る下田市内を2グループに分かれ、観光ボランティアに説明・案内を受けながら視察。途中、中心市街地にあった老舗旅館跡を甘味処・ところん資料室・えこすてーしょんを内包する複合施設として下田TMOが再オープンした阿波屋いっぷく堂にて地域の道



観光ボランティアガイド説明による市内視察



フォーラムin伊豆パネル討論

のあり方について語り合った。

この意見交換会、現地視察を受け、午後には『フォーラムin伊豆 地域とみち』が開催された（主催：下田街道活用推進協議会他、会場：下田市民文化会館）。かつて建設省沼津工事事務所所長として、伊豆縦貫道構想策定に携わった宮田年耕国土交通省道路局長が『地域と道の新しい関係を築くために』をテーマに基調講演を行ない、伊豆の道路の問題点を指摘した後、車にとっての道路、人間あるいは住民にとっての道路を説くとともに伊豆縦貫道とこれに繋がる伊豆全体の道の協調性を唱えた。またパネル討論会では、宮田氏に加え、地域づくり団体代表、観光関連団体事務局長、大学教授、自治体関係者がパネリストとして伊豆の現状を踏まえながら、道自体の観光商品化や全国風景街道のリード役などの可能性を提示した。また、熊本黒川温泉の事例を紹介しながら、その地域の想いを具体的なものにしていくためには熱意と行動力が不可欠で、人の存在が鍵となっていると結んだ。

神奈川  
KANAGAWA

## 市街地活性化へLRT 横浜市民らが導入計画

市街地活性化のため、LRT（次世代型路面電車）を導入しようと、横浜市民らが動き始めた。先行するNPO法人「横浜にLRTを走らせる会」は、2007年度の活動方針としてLRT推進協議会（仮称）の設立を6月の総会で決定した。

走らせる会は03年6月に設立準備会を開き、同年12月に設立総会を開催。翌年6月にNPO法人格を取得した。並行して、毎年夏冬にフォーラムを主催し、LRTの導入気運を盛り上げるとともに、独自に「路線案」を検討してきた。

検討に際して考慮した事項は中心市街地の活性化で、モデル的に「本牧地区」「みなとみらい・関内・野毛」「馬車道・伊勢佐木」の3ルートを提案した。みなとみらいを除けば、いずれも事業所、商店、飲食店などの撤退で、地盤沈下が著しい地区だ。

走らせる会は、横浜開港150周年に当たる09年にLRTを走らせる計画を公表。そのため、LRT推進協議会（仮称）を07年度に設立することを、今年6月の総会で決定した。設立発起人は、すでに約130人集まっているという。

3ルートのうち本牧地区では、走らせる会から分かれた「ライトレール本牧事業推進プロジェクト」が、09年度の事業認可を目指し、国交相や横浜市長にこの夏、陳情活動を開始した。LRTの運行事業体の設立を急ぐため、別行動を取っているという。

同プロジェクトは、ミニバスと一体運行するLRTの導入を計画。総延長約9キロのルートを「ヨコハマ・スターク27」と名付けた。スタークは、スター(星)とアーク(箱船)を合わせた造語。27は想定される電停の数だという。

一方、馬車道・伊勢佐木ルートでも、伊勢佐木町商店会が昨年秋、先進地の富山市のLRTを視察するなど、独自に導入の可能性を探り始めた。走らせる会の路線案では、同ルートは約2.3キロで17の電停の設置を想定している。

伊勢佐木町は、早くからモール化に取り組み、1、2丁目は平日でも歩行者天国になっている。LRTに熱心なのは、この区間の商店主らで、一世を風靡した「イセプラ」（同商店街をぶらぶら歩くこと）のにぎわいを重ね合わせて、導入を計画している。

走らせる会は、伊勢佐木町商店会や本牧プロジェクトなどとも関係を取りながら、路線案の実現を図る構え。必要ならば年2回のフォーラムのほか、出前フォーラムの開催などを通じて、LRTの優れた点を広報していくという。

▽LRT=ライト・レール・トランジットの略。従来の路面電車に比べ、開口部が大きく、超低床式で乗り降りしやすい。騒音・振動も少なく、乗り心地がいい。環境問題や交通渋滞、駐車場不足などの解決策として、欧米で導入が進んでいる。

### LRT想定ルート

